

高齢者医療物語 介護の参考のために

樹のはなクリニック
奈良岡 美恵子

1. 90代の女性Aさん

待合室で「今朝たべたものは?」「えっ、ちがうでしょ」

「今日は何月何日?」「えっ、ちがうでしょ」
娘さんからダメ出しの連続。

診察室ではとても硬い表情をしています。

娘さん「この頃どんどんニンチがすすんでいて」

「でもね、私迷惑かけないようにやっていますよ」とAさんきっぱり言いました。

(ヘルパーさんが入っており、一人暮らしは成立しています)

90代で一人暮らしは立派です。頑張っている姿を褒めてほしいのです!

2. 90代の男性Bさん

娘さん「最近新聞も全くよまなくなったし、寝てばかりパソコンもしないし」

診察の時きいてみました「Bさん、ぼやけてみえてませんか?」

Bさん「何だかモヤがかかっていますよ」
その後眼科を受診しました。高齢だけどやる価値あり!と思い切って手術しました。
白内障の手術後、暫く中断されていた自宅血圧測定グラフを以前のようにエクセルで表にして持参されるようになりました。

「もっと早く気がついてあげればよかった、こんなに元気になるなんて」

同居していない娘さんが肩を震わせて言いました。

意欲がなくなったのは、白内障でよく見えなくなったから。周囲の気づき大切ですね。

3. 80代の男性Cさん

妻「もう、しんどいです。大声でしゃべらないと通じないから」

難聴は外来では分かりにくいです。

年をとると高い音は聞こえにくくなりますので、医療関係者はワントーン低い声でし

ゃべります。

高齢二人暮らし、会話はどんどん少なくなっています。

補聴器は高額です（保険で何とかありませんかね）。

Cさん思い切って補聴器を買いました。

妻「補聴器つけるようになってから会話が楽になりました」「でも、家にいるときはつけません」次の問題勃発。

難しいですね、補聴器問題。

目の次に耳です。とぼけているのではなくて、聞こえていなかったのです。

4. 70代後半の女性Dさん

物忘れがたいふ進み、娘さんたちの事も時々分からなくなります。

夫と二人暮らしです。深夜起きてゴソゴソ探し物をする。また、トイレにオムツパットを流して詰まらせたりします。

最近「食えること」そのものが理解できなくなっているようです。

「何それ？いらない」と食べません。

夫の介護疲労が気になっています。

時々夫の気持ちをききます。

「若い時迷惑かけたから、今は俺がやる番だよ」

「俺の事がわからなくなったら、そのときはまた相談するよ」と淡々と話されます。

ショートステイ（短期間のお泊りです）を利用し一息いれましょう。

5. 80代後半の女性Eさん

今は老人施設に入っています。以前は3人息子の長男さんが同居をして介護していました。

物忘れ外来の初診時「あたしは、こんな所にくる必要はない」と激怒して帰った方です。もう5年以上前でしょうか。

下町育ちのEさん、一度気持ちを許してくれると「先生と会うのが楽しみよ」と、元氣よく通院していましたが、次第に夜外に出るようになり、階段から足を踏み外したり。

通帳がないと息子さんを責めました。昼間のデイサービス、そしてショートステイ（短期間のお泊り）を利用していました。

昼間仕事をしている息子さんが、夜、何度も起こされ「お金がない」を繰り返すので疲労困憊し施設入所を選びました。

認知症が進んだ今も「お兄ちゃん」だけはわかるそうです。

認知症がどんなに進んでも一番世話になった人はわかるのですね。

6. 70代後半の男性Dさん

長年のヘビースモーカーそして大酒家。

脳卒中で入院。ようやく退院にこぎつけたと思ったら、夕飯時に飲酒して自宅階段から転落、肋骨骨折、脾臓損傷、左上腕骨骨折、救急搬送となりました。

長引く入院で足腰が弱り、そしてせん妄（周囲の状況が分からなくなり興奮する状態）

を起こすなど大変な状態でした。誤えん性肺炎も起こしました。退院後、月2回の訪問診療開始。(←患者さんの要請を受けた医師が診察する「往診」とは違います。定期的に自宅に伺うのが訪問診療です)。さすがに禁煙はしていますが、長年のタバコのお蔭で!! 痰がらみが続いていましたので、歯科往診開始、週1回歯科衛生士の訪問も続いています。義歯の調整をしてよく噛めるようになり、口腔内がいつも綺麗になってから肺炎を起こさなくなりました。「歯」は健康の源です。痛くなってから歯医者に行くのではなく、定期的なチェックが大切です。

タバコは万病の元、そして歯の定期チェックはぜひ受けましょう。

まとめ

年をとれば、誰でも物忘れをするようになります。

「さっき言ったでしょ」「そんなことあるはずないじゃない」「すっかりボケちゃって」ご本人はとても悲しそうな顔をしています。待合室で、物忘れチェックの予行演習をしている家族もいます。

できないと「だめじゃない、そんなことじゃ」と叱責しているようです。

下をむいてしょんぼりしている姿を事務スタッフから報告を受けます。白内障で目も見えにくくなり、本や新聞を読むのがおっくうになります。

手術をするタイミングを逃さず、不便を感じているようなら眼科を受診しましょう。

高齢者は我慢強く迷惑をかけまいと思っています。

テレビが大音量になったら耳鼻科へ行きましょう。大きな耳垢が塞いでいて聞こえが悪くなっていた方もいました。

(往診先で両耳から化石のようなものが出てきました)

「あああ! さっぱりしたわ」100歳の女性の声を思い出しました。

補聴器は高額なので二の足をふみますよね。でも、レンタルもあります。補聴器を検討するときは「認定補聴器技能者」のいる店をえらびましょう。

物忘れ以外、目・耳・歯そして足腰の様子も見てあげましょう。

いつかは来る永遠のお別れ、その際今までの事を悔いることのないように。

孝行したいときに親はなし

(ならおか・みえこ＝世田谷区)

